

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

|                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 校訓「克己」のもと、専門コース設置校として、新たな時代に対応する確かな学力と、時代の変化に対応できる主体性や課題解決能力を持ち、将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた心豊かな人物を育成する学校 |
| 1 新たな時代に対応する確かな学力や課題解決に活用することのできる思考力・判断力・表現力等を育む学校                                                |
| 2 「踏み出せ、一步」をスローガンに、将来にわたり目標や課題意識を持ち、自ら学び続けるとともに、主体的に行動できる人材を育成する学校                                |
| 3 多様な価値観を尊重し、人間関係を構築できる、豊かな人間性、社会性を備えた人材を育成する学校                                                   |

2 中期的目標

|                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 確かな学力の定着と学びの深化                                                                          |
| (1)「わかった」「できるようになった」を実感できる授業をめざして授業改善に取り組む。                                               |
| ア 主体的・対話的で深い学びによって、日々の学習の中で達成感と小さな成功体験を積み重ねることで生徒の学習意欲を向上させ、学習内容の定着を図る。                   |
| イ 教材や評価法の好事例を共有すること等により、観点別学習評価による指導と評価の一体化をすすめ、生徒が自らの学びを調整する力を育む。                        |
| ウ ICT 機器や1人1台端末の効果的な活用を進める。                                                               |
| ※学校教育自己診断(生徒)「『自分で考える力』が身についた」の肯定率を令和 10 年度には 85%とする。(R5 83.3%、R6 81.2%、R7 79.8%)         |
| 同「自分で物事を調べ、発表する機会がある」の肯定率は今後も 90%以上を維持する。(R5 94.4%、R6 94.8%、R7 93.9%)                     |
| (2)生徒の進路実現を支援する。                                                                          |
| ア 3年間の進路指導方針・計画に基づき、生徒の希望に基づく進路指導および情報提供等を計画的に実施し、早期の進路意識の醸成に努める。                         |
| イ 進学講習や補習、勉強合宿、勉強会等、自ら進んで学びに向かう機会の充実を図る。                                                  |
| ウ 外部模試の計画的・積極的な受験を推進し、生徒が自分の目標と到達度を的確に把握し学びにつなげる指導体制を作る。                                  |
| ※4年制大学進学率は 60%以上をめざす。(R5 66.9%、R6 59.9%、R7 57.1%)                                         |
| ※第一志望進路の達成率を令和 10 年度には 83%とする。(R5 78.0%、R6 78.4%、R7 81.3%)                                |
| ※学校教育自己診断(生徒)「進路についての情報をよく知らせてくれる」の肯定率を令和 10 年度には 88%とする。(R5 80.6%、R6 85.9%、R7 85.6%)     |
| 2 将来を見据え自ら人生を切り拓いていく態度を育成する取り組みの推進                                                        |
| (1)キャリアデザインについて考えさせる。                                                                     |
| ア 自分の人生・生き方を見つめ、将来の「キャリアデザイン」について考えさせ、併せて主体性や課題解決能力も育成する。                                 |
| ※学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率を令和 10 年度には 90%以上とする。(R5 84.2%、R6 87.1%、R7 88.4%) |
| 3 自主・自立の精神と自己肯定感を養い、豊かな人間性と将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた生徒の育成                                      |
| (1)社会性の育成と規範意識・マナーの向上に取り組む。                                                               |
| ア 身につけさせたい規範意識やマナーについて、その指導の意義・意図を生徒が理解し、主体的に考え自ら規範やマナーを守ることができるよう導く。                     |
| イ 「薬物」、「情報リテラシー」等に関する指導に取り組む。                                                             |
| (2)人権を尊重する意識・態度の育成                                                                        |
| ア 様々な分野の講師による講演等、計画的に人権教育を実施し、お互いを尊重し大切にする心を育む教育を推進する。                                    |
| イ いじめを未然に防止し、早期に発見・解決するために、いじめに関する校内組織を中心に継続的・組織的に取り組む。                                   |
| ※学校教育自己診断(生徒)「本校では、人権尊重や命の大切さについて学習する機会が多い」の肯定率 90%以上(R5 95.5%、R6 91.3%、R7 86.7%)         |
| (3)課外活動で地域社会と繋がり、多様な人と協働すること等により、将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた生徒の育成に努める。                           |
| ア 入学時のクラブ紹介、体験入部等の企画を工夫し、部活動の充実に努める。                                                      |
| イ 生徒会活動や学校行事のさらなる活性化に継続して取り組み、生徒が主体的に運営する機会を増やす。                                          |
| 4 学校全体の課題解決に向けた取り組み                                                                       |
| (1)大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づく、働き方改革の推進                                           |
| ア 業務分担の見直し、グループウェア等を活用した校務運営の効率化、一斉退庁日の実施を徹底することにより、働き方改革を進める。                            |
| (2)開かれた学校づくりと広報活動                                                                         |
| ア 保護者、中学生とその保護者に対し、学校の情報と魅力を積極的に発信する。                                                     |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕 | 学校運営協議会からの意見 |
|---------------------------|--------------|
|                           |              |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的<br>目標                                            | 今年度の重点目標                                                        | 具体的な取組計画・内容                                                                                                                                                                | 評価指標[R 7 年度値]                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 自己評価 |
|------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1 確かな学力の定着と学びの深化                                     | (1)「わかった」「できるようになった」を実感できる授業をめざした授業改善                           | ア 研究授業や日常的な授業見学の実施<br><br>授業内の学びにおいて、生徒が小さな成功体験を積み重ねられる取組みを推進<br><br>イ 教材や評価法の好事例を共有すること等により、観点別学習評価による指導と評価の一体化をすすめ、生徒が自らの学びを調整する力を育む。<br><br>ウ ICT 機器や1人1台端末の効果的な活用を進める。 | ア 研究授業や授業見学の実施<br><br>授業アンケート「興味・関心が持てた」「知識・技能が身に付いた」肯定率の向上[86.5%]<br><br>イ 学校教育自己診断(教職員)「教材の精選や指導方法の工夫をしている」肯定率 90%以上[87.9%]<br>学校教育自己診断(生徒)肯定率の向上<br>「『自分で考える力』が身についた」[79.8%]<br>「学習評価(成績)は、テストの得点以外の部分(観点)からも評価されている」[91.1%]<br><br>ウ 学校教育自己診断(生徒)の肯定率<br>「自分で物事を調べ、発表する機会がある」92%以上を維持[93.9%]<br>「授業では、コンピュータやプロジェクターを活用している」92%以上を維持[93.4%]<br>「本校は生徒1人1台端末を効果的に活用している」93%以上を維持[94.7%] |      |
|                                                      | (2)生徒の進路実現を支援する。                                                | ア 生徒の希望に合わせた進路指導および情報提供等の実施と早期の進路意識醸成<br><br>イ 進学講習や補習、勉強合宿、勉強会の充実<br><br>ウ 外部模試の計画的・積極的な受験と結果の効果的な活用を推進                                                                   | アイウ<br>4年制大学進学率 60%以上[57.1%]<br>第一志望達成率の向上[81.3%]<br><br>学校教育自己診断(生徒)肯定率の向上<br>「進路の情報をよく知らせてくれる」[85.6%]<br>「補習や講習が充実している」[85.7%]                                                                                                                                                                                                                                                           |      |
| 2 将来を見据え自ら人生を切り拓いていく態度を育成する取組みの推進                    | (1)キャリアデザインについて考えさせる。                                           | ア 探究委員会が中心となり教育産業のプログラムも活用しながら、自分の人生・生き方を考えさせ主体性や課題解決能力を育成する。                                                                                                              | ア 学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」肯定率の向上[88.4%]<br><br>探究発表会の実施[3回]                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |      |
| 3 自主・自律の精神と自己肯定感を養い、豊かな人間性と将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた生徒の育成 | (1)社会性の育成と規範意識・マナーの向上                                           | ア 身につけさせたい規範意識やマナーについて、その指導の意義・意図を生徒が理解し、主体的に考え自ら規範やマナーを守ることができるよう導く。<br><br>イ 「薬物」、「情報リテラシー」等に関する指導に取り組む。                                                                 | ア 学校教育自己診断(生徒)「学校生活について先生の指導には納得できる」肯定率の向上[62.0%]<br><br>学校教育自己診断(保護者)「生徒指導の方針に共感できる」肯定率の向上[66.8%]<br><br>イ 学校教育自己診断(生徒)「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」肯定率の向上[85.6%]                                                                                                                                                                                                                             |      |
|                                                      | (2)人権を尊重する意識・態度の育成                                              | ア 計画的な人権教育の推進<br><br>イ いじめを未然に防止し、早期に発見・解決するために、いじめに関する校内組織を中心に継続的・組織的に取り組む。<br><br>生徒支援の充実                                                                                | ア 学校教育自己診断(生徒)「人権尊重や命の大切さについて学習する機会が多い」肯定率の向上[86.7%]<br><br>イ 学校教育自己診断(生徒)「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率の向上[82.6%]<br><br>教育相談委員会・小委員会(月2回)、支援委員会(学期1～2回)の開催                                                                                                                                                                                                                            |      |
|                                                      | (3)課外活動で地域社会と繋がり、多様な人と協働すること等により、将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた生徒の育成に努める。 | ア 入学時のクラブ紹介、体験入部等の企画を工夫し、部活動の充実に努める。<br><br>イ 生徒会活動や学校行事・学年行事の企画運営に、生徒が主体的に関わる機会を増やす。                                                                                      | アイ<br>学校教育自己診断(生徒)「学校行事や生徒活動が活発な学校である」肯定率 90%以上を維持[92.2%]<br>同「クラブ活動が活発な学校である」肯定率の向上[86.7%]<br><br>学校教育自己診断(保護者)「学校行事やクラブ活動は活発に行われている」肯定率の向上[86.3%]                                                                                                                                                                                                                                        |      |

|                          |                                                                                |                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                 |  |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 4<br>学校全体の課題<br>に向けた取り組み | <p>(1)大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づく、働き方改革の推進</p> <p>(2)開かれた学校づくりと広報活動</p> | <p>ア 業務分担の見直し、グループウェア等を活用した校務運営の効率化、学校部活動方針及び一斉退庁日の実施を徹底することにより、働き方改革をすすめる。</p> <p>ア 保護者、中学生とその保護者に対し、学校の情報と魅力を積極的に発信する。</p> | <p>ア 平均残業時間の削減[31.5 時間]<br/>年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする。[10 名]<br/>月の時間外在校等時間が 45 時間を超える教員数を 20 名以内にする。[33 名]</p> <p>ア 学校公式ブログ更新 50 回[49 回]<br/>SNS のフォロワー数 950 人以上[835 人]<br/>学校教育自己診断(保護者)「教育活動について連絡ツールやホームページ、SNS 等で提供の努力をしている」の肯定率 95%以上 [96.2%]</p> |  |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|